

そらうがく

(No. 73)
R4.3.3 発行
現職研修委員会
総合的な学習部編集



本年度の指導員訪問報告

生活・総合指導員 竜海中学校 酒井 智之

本年度も、コロナ禍でありながら、総合的な学習の時間に情熱をもって取り組まれる先生方の授業を拝見することができ、大変うれしく思いました。地域教材を扱い、学習課題が自分事となるように工夫された先生方の授業実践を紹介します。

A 小学校の B 教諭は、地域活性化事業を教材化しました。全校児童数の減少に危機感を感じる子供は、学区の過疎化に歯止めをかけるために努力する地域の方々生き様に触れ、学区の人口を増加させるために必要なことについて考えることができました。また、C 小学校の D 教諭は、コロナ禍であることを鑑み、他市にある同名の小学校と自作した動画による交流を行う授業を構想しました。学区の特色を正しく伝えるために取材に出かけ、客観的な事実をもとに動画の作成に取り組みました。目的と方法を明確にし、相手意識をもって授業を展開したことで、何度も取材を行い、編集し直すなど、子供は粘り強く学習活動に取り組むことができました。

岡崎市では、個別最適な学びの実現を願ってチーム学習に取り組んでいます。困ったときに聞きたいことが聞ける。子供が自然に話し合える場がもてる。個別最適な学びの実現において、チーム学習は大変有効な手立てです。今後は、作業場面だけではなく、自他の考えを練り上げる場面での教師支援の在り方を模索していきたいと思えます。

先生が教材に惚れ込んでこそ

総合的な学習部長 竜谷小学校 中垣 明道

令和四年度が無事終わろうとしています。今年度は令和四年度が無事終わろうとしています。今年度は私は、縁あって総合的な学習部会の副部長を初めて拝命し、当初は戸惑いと不安に苛まれました。恥ずかしながら、担任として総合的な学習に関わった経験が希薄であったからです。それでも、こうして務めることができたのは、教育委員会、部長先生、指導員の先生、世話係の先生、そして現場の先生方のおかげだと思っています。

この一年は新鮮な学び・感動の連続でした。夏休みに授業力・教師力アップセミナー（基礎編）が実施されました。そこでは、「主体的に考え協働的に追究し行動する子どもの育成」アートマイル国際協働学習プロジェクトを通してと題し、常磐小学校の丸中美来先生が実践発表されました。

「今の小学校はこんなことまでやっているのか！」驚きと感動でした。台湾の学校と一年を通じてオンラインで交流するという壮大な学習計画でした。子どもたちは自己紹介や会話のために英語を学びます。互いの国や地域の文化・風習等を紹介し合います。そして、SDGs の観点から未来をよりよくするため方法を協働的に学び、それぞれの思いを壁面にしていきます。まさに、総合的な学習の時間の目標である横断的・総合的な学びが具現されていたと言えます。

この発表で、私が最も感心したのは、子どもたちのその表情です。どの子も目を輝かせ、生き生きと活動し、満面の笑顔です。教材に取り憑かれたと言ってもよいでしょう。

さて、本校に目を向けます。絶滅危惧種「カワバタモロコ」に焦点を当て、学びを進めています。学区の生き物博士（総代さん）に話を聞き、校内のビオトープに生息させるための方法を考え、環境問題に発展させていきます。ビオトープの生き物を捕まえて調べたり、ビオトープの清掃をしたりと、生き生きと活動しています。前述した国際交流とはスケールの違いこそあれ、子どもは教材に取り憑かれています。

総合的な学習 という専門的な免許を持っている先生はいません。言い換えれば、誰でも指導できないければならないし、誰でも研究実践していく必要があるということでしょう。その理論を学ぶことはもちろんですが、まず「先生がその教材に惚れ込む」ことが大切だと、二つの実践を通して感じたことです。教師が魅力を感じない教材は、子どもも惹かれることはないでしょう。逆に教師が取り憑かれた教材は自ずと子どもたちに伝わり、教師の想像以上の力を子どもたちが発揮してくれることでしょう。

来年度、先生方が惚れ込んだ教材でどんな実践に出会えるのか楽しみにしております。それ以上に各校の子どもたちもそれを待ち望んでいることでしょう。

第二回岡総研の報告

十一月十一日(金)に総合学習センターで第二回

岡崎総合的な学習研究会(岡総研)が開催されました。今回は自然科学研究機構特任教授の小泉周先生をお迎えして、昨今、さまざまな場面で耳にするようになったSTEAM(S:サイエンス T:テクノロジー E:エン지니어リング A:アート M:マスマティクス)とは一体何か、なぜ注目されるようになってきたのかについてお話をいただきました。

その後、経済産業省「未来の教室」が運営するコンテンツSTEAMライブラリーの紹介をしていただきました。コンテンツには、Society5.0やキャリア教育、少子高齢化、エネルギーなど、総合的な学習の時間でも多く取り上げる内容に関する映像や資料があり、今回はジェンダーについての動画を活用し、ご説明いただきました。コンテンツの中には、そのまま授業で活用できるような動画が掲載されています。

また、第二部では総合的な学習をどのようにまとめ・発信へとつなげていくかというテーマで、座談会が行われました。最後に、愛知教育大学 金指由香里先

生から、コロナ禍における総合的な学習で心掛けておきたいことなどを、教授いただきました。第二回岡総研は、三月十日を予定しています。

学び舎の 総合耳寄り情報

本校には、自然の中で遊び、学べる「夢山」があります。三・四年生では、「もっこ」楽しい「夢山」をテーマに取り組んできました。夏には近くに流れる夏山川で釣りをし、川の生態調査に取り組みました。秋にはオリエンテーリングを作り、低学年や額田学区の学校に楽しんでもらいました。これからも自然の中での学びを深めていこうと思います。



(夏山小学校 原山 昇士 先生)

本校では、小規模校の特性を生かし、全校縦割りの総合学習を実施しています。今年度は、福祉・地域・文化・科学の四つの講座を用意し、生徒は一つの講座を選択しました。

「河中学区探検隊」(地域)

では、学区内の寺社や建造物を自転車で巡り、地域の特徴やよさを五感で学ぶことができました。



どの講座も、生徒自らが課題を見つけ、学年を越えた探究的な学習活動が展開されていました。

(河合中学校 辻村 堅吾 先生)

奥殿学区では、明治から昭和時代にかけて、ガラ紡と呼ばれる機械を使った紡績業が盛んでした。本校の四年生は、(有)フアナビスの稲垣光威さんに来ていただき、綿の栽培・収穫・糸作り・染色・布作りを体験しながら地域学習を進めています。(奥殿小学校 山本 純子 先生)



本校では、SDGsの考えをもとに学習しています。世界と日本の取り組みを比較するなかで、日本にはまだまだ自然環境に対する課題が多くあることに生徒は気付きました。そこで、「自分たちができるSDGs」として、新聞紙や古タオルなどの資源「みを利用し、紙箱や紙袋、雑巾などのSDGsグッズを作っています。これらの活動を基に、日頃からSDGsを意識して生活するきっかけになるように取り組んでいます。



(美川中学校 伊豫田 崇晃 先生)

今年の春、四年生が放流したゲンジボタルの幼虫が羽化し、運動場周辺に光るホタルが飛び交いました。この秋も河合中学校から幼虫をいただき、次の春の放流に向けて毎日世話をしています。ホタルの生態を調べ、餌となるカワナナの飼育も手掛けながら、ふるさとの光を継ぐ学びを続けています。



(秦梨小学校 田島 優一 先生)

経済産業省
「未来の教室」
STEAM ライブ
ラリーへは、こち
らのQR コード
から↓

